

総合効率化計画の概要

(平成20年度認定事案)

政策統括官付 参事官 (物流施設) 室

目次

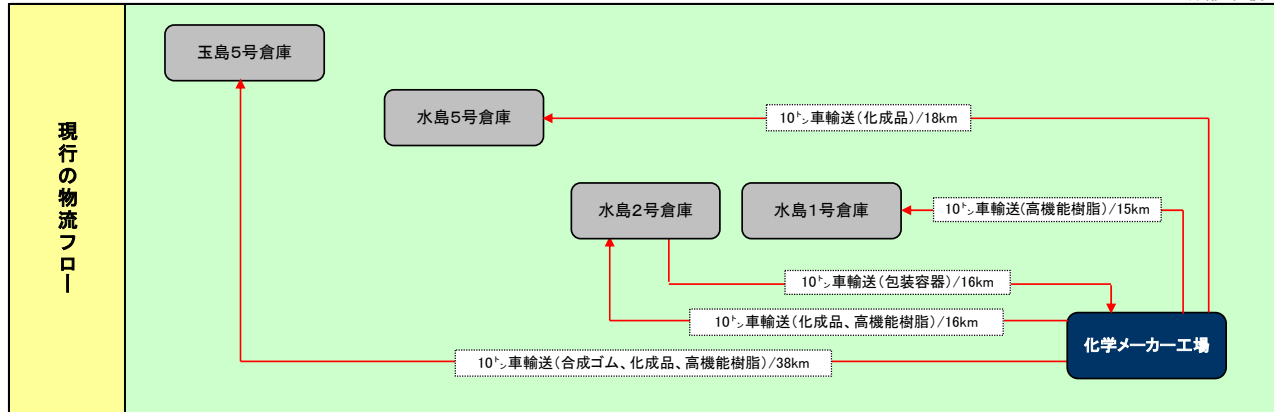
○山九(株)	
(株)カンキウ・トランスポート・中国	1
○大和特殊鋼(株)	
丸太運輸(株)	2
○豊通物流(株)	
(株)上組	3
○鈴与(株)	4
鈴与自動車運送(株)	
○(株)エルス	6
○(有)トキキャリアサービス	7
○アルフレッサ(株)	8
日商物流サービス(株)	
○名豊興運(株)	9

総合効率化計画の概要

山九(株)・(株)サンキュウ・トランスポート・中国

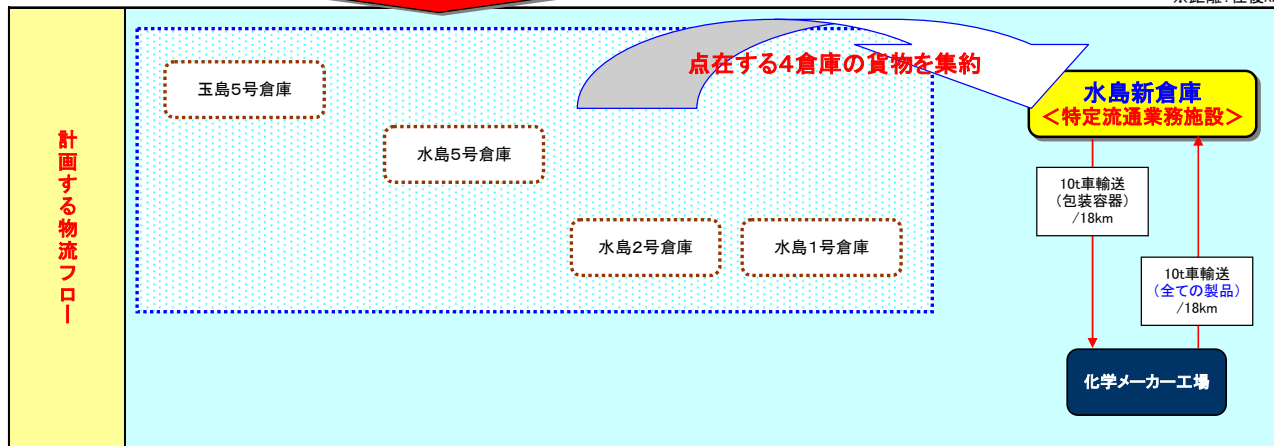
< 効率化計画の概略図 >

※距離: 往復km



総合効率化

※距離: 往復km

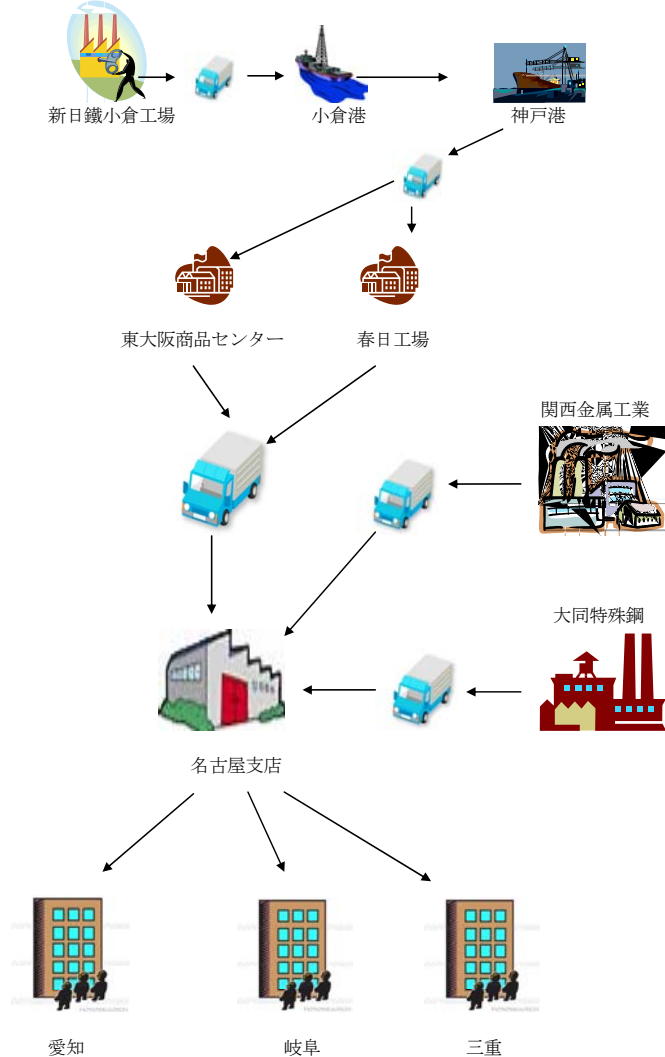


→ : CO2計算の対象とした輸送

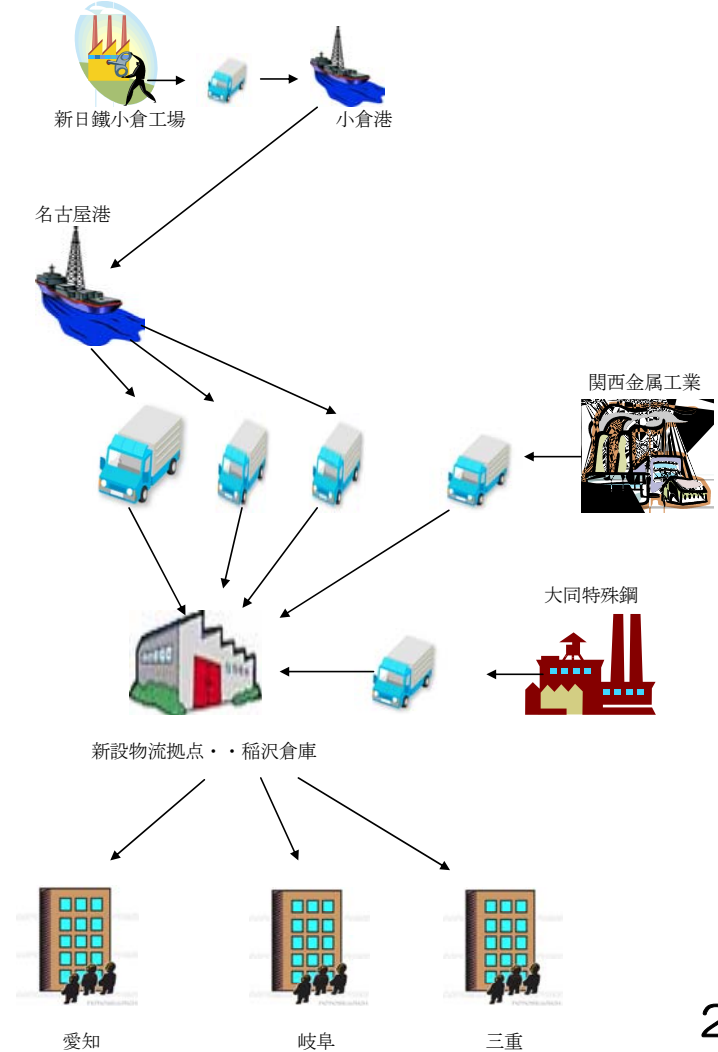
総合効率化計画の概要

大和特殊鋼(株)・丸太運輸(株)

現行



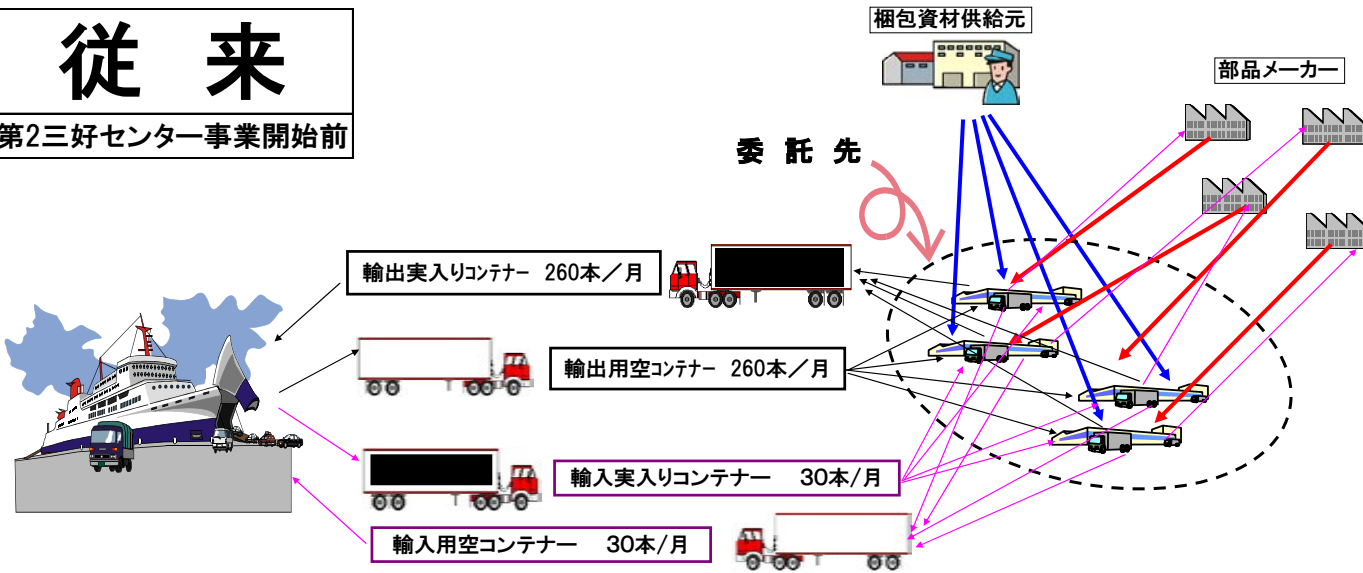
計画



総合効率化計画の概要 (豊通物流(株) ・ (株)上組)

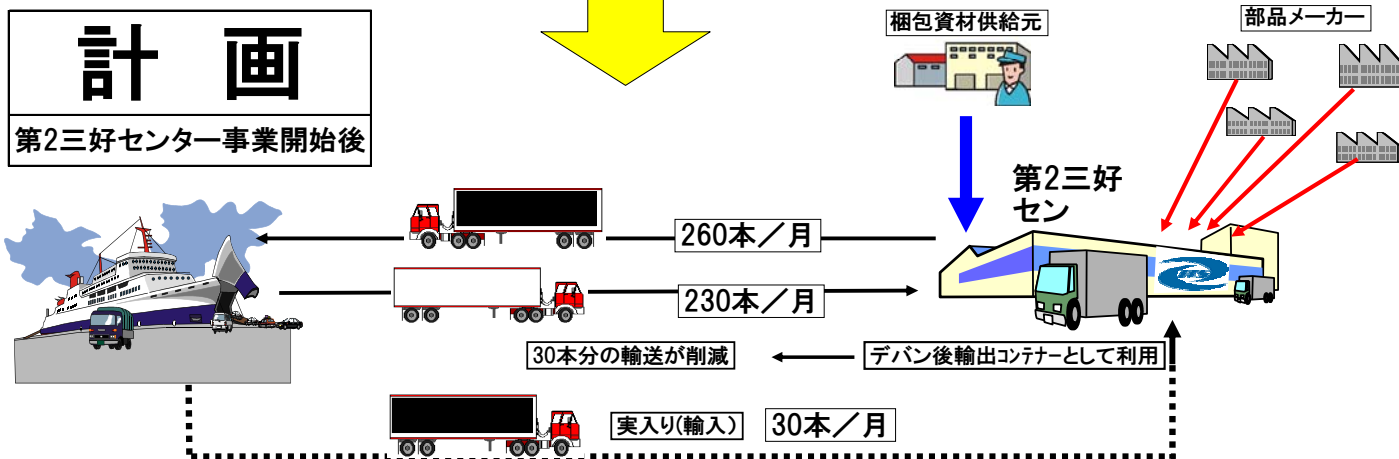
従 来

第2三好センター事業開始前



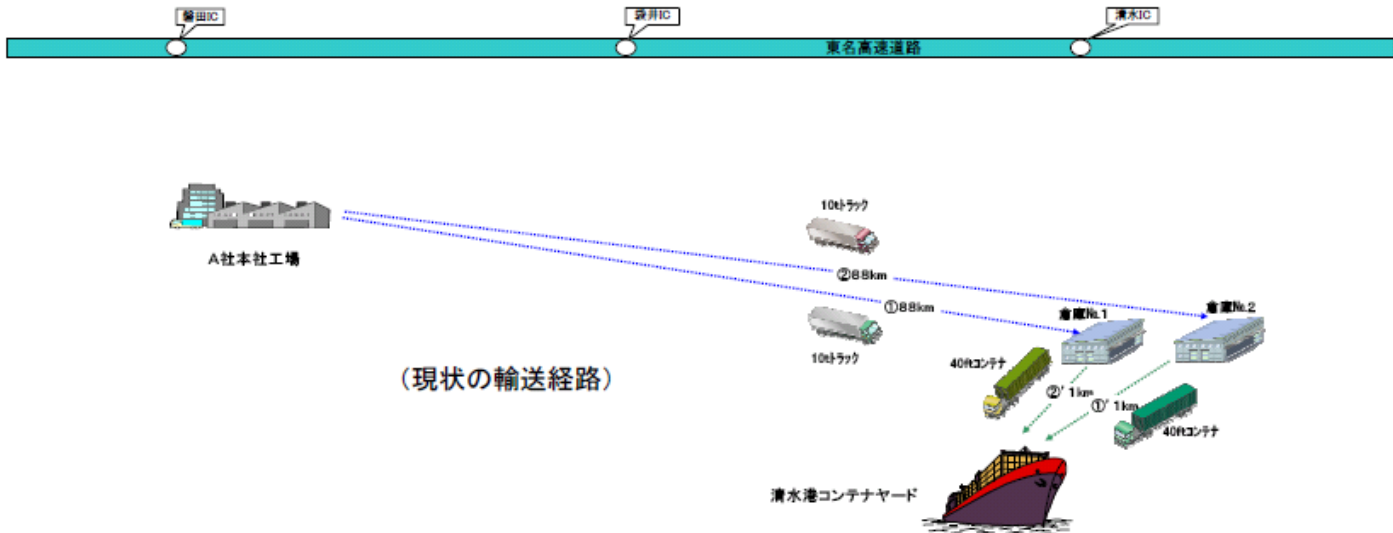
計 画

第2三好センター事業開始後



総合効率化計画の概要 (鈴木(株) ・ 鈴木自動車運送(株))

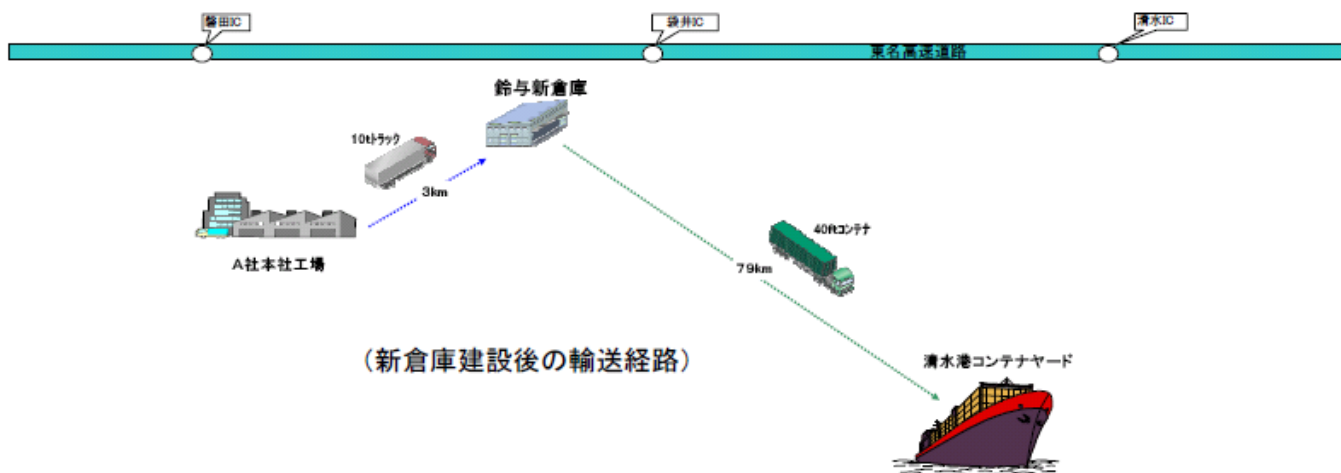
現状 (試算は、年間、片道) CO2排出量: 406t



輸送の種類	発地	着地	距離	輸送方法	積載重量	積載率	年間輸送量(t)	改良トンキロ法	単位発熱量	排出係数	二酸化炭素へ換算	排出CO2 (t)
①横持ち	A社本社工場	倉庫No.1	88km	10tトラック	10t	80%	30,976	0.041	38.2	0.0187	3.6667	292.73
①Dトレージ	倉庫No.1	清水港コンテナヤード	1km	40tコンテナ	20t	80%	30,976	0.0342	38.2	0.0187	3.6667	2.77
②横持ち	A社本社工場	倉庫No.2	88km	10tトラック	10t	80%	11,616	0.041	38.2	0.0187	3.6667	109.78
②Dトレージ	倉庫No.2	清水港コンテナヤード	1km	40tコンテナ	20t	80%	11,616	0.0342	38.2	0.0187	3.6667	1.04
TOTAL											406 t	

計画(新倉庫建設後)

CO2排出量: 315t



現行	A			B		C	D	E	F	AxBxCxDxExF ÷ 1000		
輸送の種類	発地	着地	距離	輸送方法	積載重量	積載率	年間輸送量(t)	改良ノウハウ	単位発熱量	排出係数	二酸化炭素へ換算	排出CO2 (t)
① 積持ち	A社本社工場	鈴与新倉庫	3km	10tトラック	10t	80%	42,592	0.041	38.2	0.0187	3,6667	13.72
② ドレージ	鈴与新倉庫	清水港コンテナヤード	79km	40ftコンテナ	20t	80%	42,592	0.0342	38.2	0.0187	3,6667	301.41
TOTAL											315 t	

★ CO2削減量 406 t - 315 t = 91 t

★ CO2削減率 91 t ÷ 406 t × 100 =

削減率	22%
-----	-----

総合効率化計画の概要 (株エルス)

- ①福岡エリアの物流拠点を高速I.C近くに新設し、北部九州での貨物の集約化を図る。
- ②幹線トラックの大型(トレーラ)化、及びモーダルシフト(内航海運)を進め積載効率向上、及び軽油費・CO2削減を実現する。
- ③『集荷→保管→ピッキング→流通加工→幹線→配送』の一貫した高品質な総合物流サービス事業展開を図る。

温度管理可能な中継基地(冷凍・冷蔵物流センター)を新設することにより冷凍及びチルド食品の物流効率化を図る。従来の同一車両(4t~13t)による『集荷→幹線→配送』型物流ではなく、北部九州エリアの貨物を集荷車両(2~4t)が集約し、幹線トラックを大型化(トレーラ化)すると共に内航海運へモーダルシフトする。

・このように『集荷→保管→ピッキング→流通加工→幹線→配送』の一貫した高品質な総合物流サービス事業展開を図るとともにCO2排出量を47%削減する。

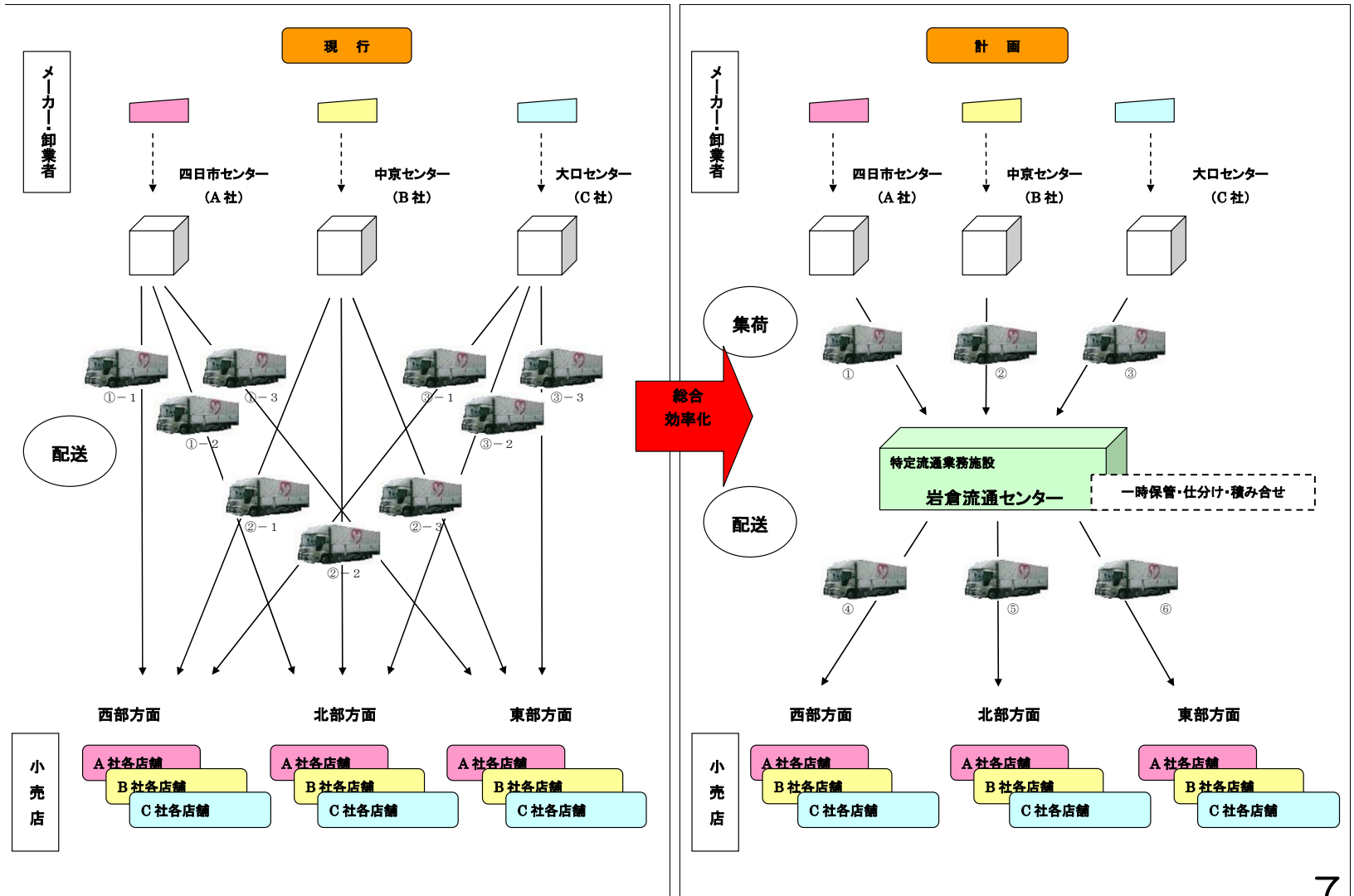
○現行



○計画

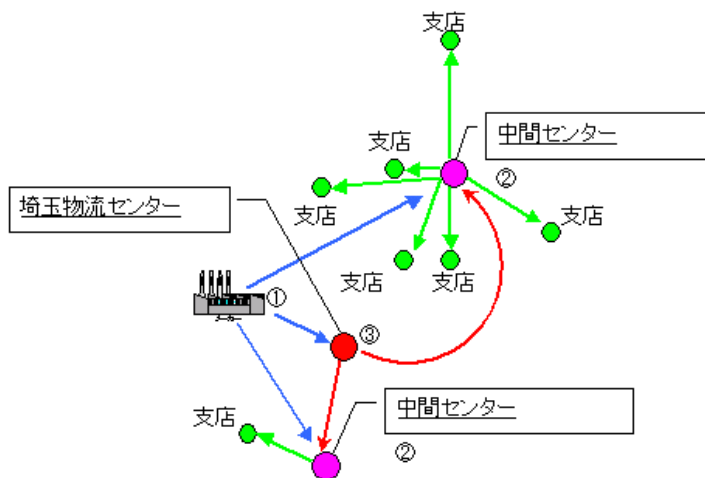


総合効率化計画の概要 (有トキキヤリーサービス)

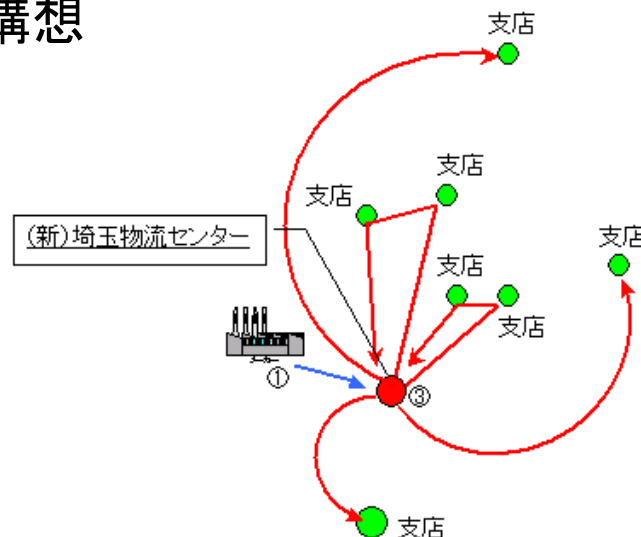


総合効率化計画の概要 (アルフレッサ㈱、日商物流サービス㈱)

現在

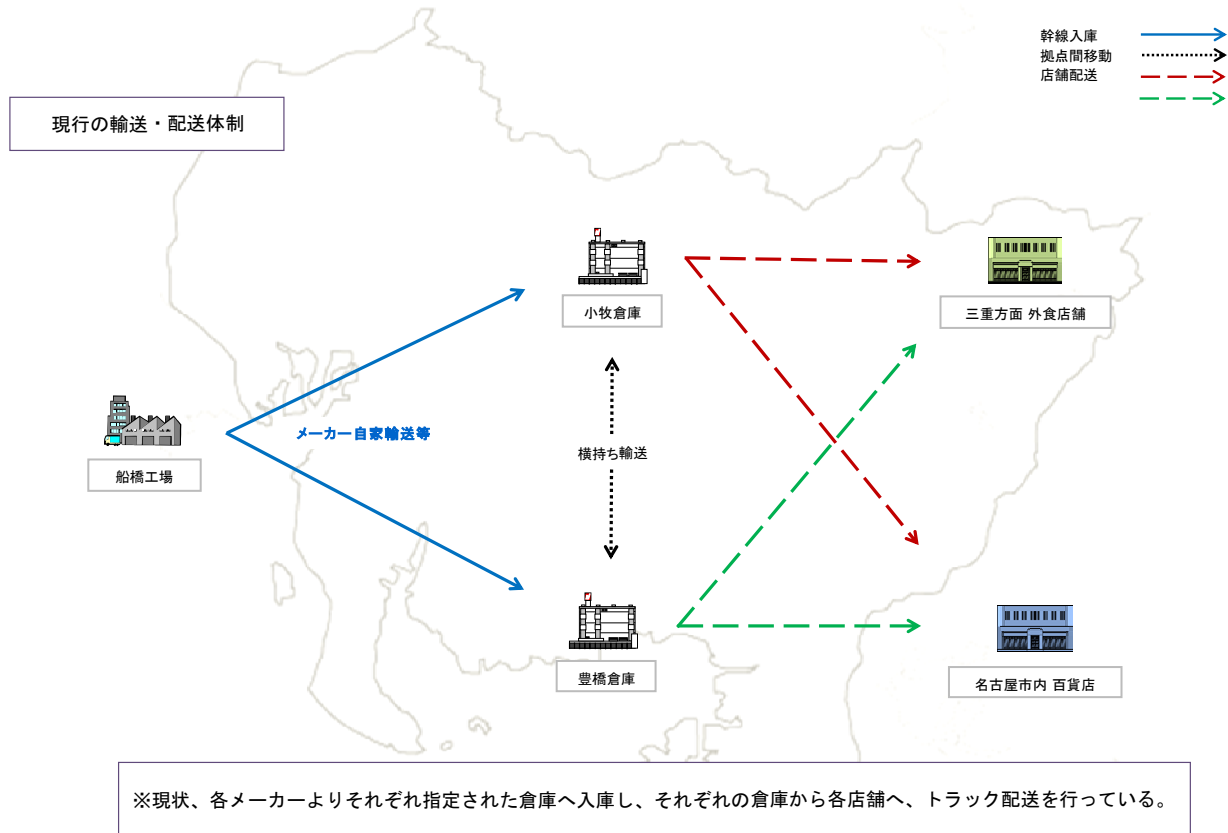


構想



- ① メーカーから入荷するセンターを一元化し作業の効率化を図ると共に、メーカー輸送便の配送効率向上と排出ガス抑制へ貢献する。
- ② 中間センター機能と配送便を廃止し輸送時排出されるCO₂の削減を図る。
- ③ (新)埼玉物流センターを中心に、合理的かつ効率的な配送網を構築し、輸送トラックより排出されるCO₂の削減を図る。

総合効率化計画の概要 (名豊興運株)





計画する輸送・配送体制

特定流通業務施設

共同配送

三重方面 外食店舗

共同配送

名古屋市内 百貨店

幹線入庫
拠点間移動
店舗配送

※新しく流通業務施設を設け、既存の各倉庫で扱っていた食品を一括管理(在庫・仕分け)し、配送面では、共同配送を確立することによる積載効率の向上、車両台数の削減、輸送距離の短縮を目指し、その結果として、CO2の大幅な削減を図ることを、目的とする。